

制作 **ゲーム** **運動** 介護の現場で役立ちます!

RECREA

レクリエ

年間購読をお申し込みの方に

プレゼント
を差し上げます!

本誌キャラ
クリエです!

<http://recrea.jp/>
☎ 0120-35-4007
(土・日・祝日も承る
10:00~17:00)



7・8月 [2016]

別冊家庭画報

特集

体を動かす 脳トレレクリエーション

7・8月の壁面
あさがおの垣根
花火とほたる

七夕の制作

七夕の吊るし飾り
ミニ吹き流し

機能向上体操

衣服を着るための体操

みんなで
料理

サイダーで作る
七夕フルーツゼリー

義歯を正しく使うことが
認知症予防につながる!

クイズで話そう!

今日は
何の日?

コピーして使える

パズル
&
ぬり絵





ある利用者さんに苦手意識を持ってしまい、他の方々と分け隔てない対応ができていない気がします……。

介護の現場には様々な相手がいます。なかには、接方や性格が合わない方もいて、平等な対応ができていない気がするのですが、どのように考えればよいのでしょうか？



自分の気持ち客観視しつつ、必要十分なケアを提供できていればよしと考えましょう。

介護の現場で接する利用者には様々な状況や個性があり、介護職に対する接し方も千差万別です。なかには、苦手意識を持ってしまった利用者もいるでしょうが、介護職も人間なので、そのような感情を持つことはあり得るでしょう。たとえ、苦手意識を持ってしまったとしても、ケアの質が変化することなく、通常の仕事が行えているのでしたら大きな問題はないと思います。ここで肝心なのは、「自分がその方を苦手だという事実」や「なぜ苦手なのか」を客観視すること。きちんとケアを行えるようになります。

また、上司や同僚に自分の気持ちを素直に話すことも効果的です。話すことで、自分の感情を冷静に見つめ直すこともできますし、「分け隔て」をしそうになってしまった場合も周囲から指摘してもらえます。それでもうまくいかない場合は、無理にその利用者で

今月の目からウロコ!

苦手意識があっても、よいケアを行うことはできます!

利用者にはネガティブな感情がある場合は、目の気持ちと仕事の姿勢を上手に切り替えることが大切です。人に押し付け、負の感情を持つことなど、自分も人間誰にでもあることなので、くれぐれ自分を買戻したり、自己嫌悪しないことが大切です。



ボランテアアの皆さんに積極的な指示出しができませんが、どのようなお願いをすればよいのでしょうか？

施設の運営において、多くのボランテアア皆さんの協力をあおいでいますが、どのように指示を出し、関わっていけばよいのかから苦悶しています。



そもそも「何か指示しなければ」という意識で関わるのは間違い!!

ボランテアアの皆さんを、施設がしてもらいたいことや、施設のやり方を指示するだけの存在と考えるのは間違いです。それではただの「労働力の提供」になってしまい、本来のボランテアアの趣旨とは離れてしまいます。むしろ、ボランテアアの皆さんのことは、「趣味や特技や時間を施設のために提供してくださる、かけがえのない存在」と捉え、敬意を持って接するべきです。だからこそ、業務開始・終了時にはきちんとお礼を伝えるべきですし、言葉遣いにも気を配ることも当然の前です。

また、ボランテアアの皆さんには、私達が気づかない部分を指摘してくれる、外からの目のような役割があります。施設で何気なく行われている行為を、一歩おさぐりの「では」と、客観的な視点で気付いたことをあげてもらったのはとても貴重です。現場の職員はそういった声を謙虚に聞き、日々の

今月の目からウロコ!

ボランテアアの皆さんには、指示ではなく、パートナー意識で接するべき

施設の要請をボランテアアの皆さんに押しつけるのではなく、むしろ、皆さんから希望を伺い、むしろ、皆さんが大事、それが利用者のためにあります。考えをあらため、施設内で協働するパートナーとして接するべきです。



高橋先生の経験談から
こんな実例がありました
職員がケアを行うとすれば、噛みついてたりして嫌れる利用者の方が多いです。とても介助しにくい方だったので、何人かの職員に苦手意識が出てしまうほどでした。しかし、ある朝、ある職員が居室に行く時、「おはよう!」とニコリとした笑顔。その時、担当した職員は驚いたと同時に、普段の苦手意識がきれいさっぱり消えていったそうです。この出来事は、利用者さんを「扱いにくい」という一点で見ることに危うさを教えてくれます。高齢者のなかには様々な側面や感情があり、ぜひともそのような多面性を見つかることのできる感性を大切にしたいものです。自分の苦手意識と向き合い、それを乗り越えることで私達の専門性は育まれていくのです。



高橋先生の経験談から
こんな実例がありました
当施設では、民間や福祉、書道や絵手紙、フロアで行う「喫茶店」や「居酒屋」のお手伝いなど、年間で延べ200名近くのボランテアアの皆さんにご協力いただいています。その際に、職員が必ず丁寧に迎えやお見送りをして、皆さんが大切な存在だということをお伝えしています。また、ボランテアアの皆さんと接することで職員が変わっていくこともあります。以前、仕事はできるけれど表情が暗い女性職員に対し、たまたま笑ったのをご覧になったボランテアアさんが、「笑顔が素敵よ」と言ってくださいました。その一言で彼女は自分を省みることができ、それからは笑顔が多くなって、施設自体にも良い波及効果をもたらすことができました。